

2025 年度事業計画

2025 年度の運営方針

2025 年の冒頭からトランプ大統領の「大統領令の乱発」「トランプ関税の乱発」で、世界中に反発が巻き起こっており、トランプ大統領の政策にも多少の修正がみられるようになってきました。そのような中でも、今年は世界秩序の変わる年になるかもしれないという危惧を抱かせるようになってきました。日本も、この影響をかなり受けると予想され、特に輸出産業は多くの影響を受けるものと考えられ、自動車産業をはじめとする日本の基幹産業は、関税がどうなるのか、日米交渉を、固唾を飲んで見守っています。

世界の動向と日本経済

「世界に緊張が走ると、小競り合いが止む。緩和すると、世界中で小競り合いが始まる」と言われていますが、世界のブロック化への危機が、良い意味での緊張が走り、これにより小競り合いが収束の方向に行くかもしれません。大きな戦いのウクライナ戦争、ガザ戦争、ミャンマー内戦、小競り合いの中東、印パキ、印中、朝鮮半島なども、収束の方向に向かい、国連の機能する世界に戻って欲しいと思います。

世界経済を見ると、アメリカが離れることにより、欧州の自立が促され、ドイツ経済が立ち直り、低迷していた中国経済も、多くの国と連携を模索するようになってきました。西欧と国連が推進する脱炭素政策は、南北問題に変容しつつあり、途上国は「先進国の排出した二酸化炭素による洪水等の気候災害が増加した」として、その補償を求めるようになってきました (COP27~28)。また、西欧・国連の求める脱炭素の具体的な方策として、石炭火力発電の停止と再エネの推進、ガソリン車の販売禁止と電気自動車の普及などの政策を進めていますが、二酸化炭素は減っておらず、炭素税でエネルギー価格が高騰し、中東欧などは暖房も困難な状況になっており、脱炭素政策の反省が始まっているように見えます。先般、スペイン・ポルトガルで起こった大停電は、過度になった再エネの電気量の制御が難しくなっているという面を示しているようです。日本でも、快晴の日の昼間の電力が使えないという問題が起こっています。火力発電、原子力発電などは計画・制御ができますが、太陽光・風力などの再エネは自然現象であり、なかなか制御が難しいという側面が表面化しつつあるようです。

戦後初の三年続きのラニーニャ現象 (2020-2022) により、南太平洋の海水温が上がり、黒潮の温度も上昇し、このため南の魚が北上したり、北海道でブリやシイラが獲れたり、北のサケやサンマが獲れなくなりしました。エルニーニョ・ラニーニャ現象も太陽の影響で 10 年前後の周期で起こるとされており、強い太陽の影響による温暖化のお陰で、近年、北海道・東北に冷害がなくなり、暖房費も少なくて済み、北海道は日本の穀倉地帯になり、多くの恩恵を受けています。最近では、宮

沢賢治の言う「寒さの夏をオロオロ歩く」こともなくなり、作物も順調に育っていますが、一方で儲からない農業は放置されたままで、農業人口が高齢化して後継者も育たず、多くの食糧を輸入に頼っている日本が心配になっています。米の異常な高騰に見られるように、日本の食糧の先行きが心配になります。

私達の属する食品産業、包装産業は、景気に大きく影響されない内需型の産業と言われていますが、円安が進むと輸入品が高くなり、包装資材も、その原料となる石油も高くなり、国内消費の下押しが心配されます。

当協会としては、いずれにしても、一喜一憂しないで、当面の課題を着実に進めていきたいと考えています。

プラスチック包装の担う役割

食品ロスを削減し、地震等の災害に備えるために、食品のロングライフ化が進められていますが、この目的で使われるアクティブ包装の分野では、脱酸素や抗菌、アクティブバリアーなど多くの包装資材や包装技術が必要になります。これらの多くは日本発の包装技術であり、当協会は、これまで欧州や中国、アセアンなどで日本のアクティブ包装技術の現状を報告し、今もアクティブ包材・技術は日本が世界の最先端であることを実感しています。

2020年6月に実施に移された食品用プラスチック包装容器のポジティブリスト（PL）制度により、アクティブ包装技術として認可された各種の機能性包装資材を広く世界に普及させることにより、多くの食品をロングライフ化させ、世界的に食品ロスを削減していくことに貢献することが期待されます。機能性包装による食品のロングライフ化は「食品を無駄にしない」「災害時に備える」といった視点や、「いつでもどこでも利用できる」という簡便性の視点や、「安心して海外に輸出できる」という新しいニーズに合致する非常に重要な技術です。消費者・流通業者等に包装の意味と役割をしっかりと理解して貰う必要がありますが、同時に生活者への広報も非常に重要な課題になります。これも私達の活動になります。

と同時に、賞味期限の意味を生活者に周知して貰い、無駄に食品を捨てない広報も同時に行っていきたいと考えています。

食包協の活動の復活と拡大

2020～2022年までの3年間は、新型コロナの感染拡大により、多くのイベントを中止せざるを得ませんでした。食包協では、2022年の年初からZOOMによるウェブ化を推進し、協会内の会議はもとより、セミナー、シンポジウム、展示会などのイベントをウェブにより開催し、会報やホームページなどによる情報発信の体制も整い、休眠中の活動も順次復活させています。

この諸事業のウェブ化を利用して、三年前から始めました「食品包装学校」は、リニューアルした「人材育成講座」と連動させ、新しい体制で教育活動の幅を広げてきています。何卒ご理解とご支援の程、宜しくお願い致します。

食品包装関連団体とのコラボの推進

食包協は、これまで食品品質保持技術研究会、日本包装機械工業会、日本包装技術協会などとの

コラボを行っています。お陰様で当方の行事にも多くの方々に参加を頂き、当協会からも様々な事業に参加させて頂いています。一昨年からはウェブの利用によって復活した諸行事で、相互に協力を進めていきたいと考えています。

今年度は、包装産業展に出展し、食包協の活動を広く知ってもらいたいと考えています。

日本食品包装協会のメインテーマである「食品包装」は、日本の食を支える「食品産業」と、食品にとって不可欠な包装資材と包装機械を提供する「包装産業」とのマッチングで支えられています。当協会は、食品包装に関する様々な情報を提供するとともに、「災害などに備えたロングライフ食品の開発」や「輸出振興に役立つ包装」「食品ロスの削減」「スマート包装」「機能性包装」などに関する情報提供にも力を注いでいきたいと考えています。

日本の食を支える「食品産業」（食品製造・配送・販売・外食）は2016年に100兆円を超え、食品産業を支える「包装産業」は約7兆円の産業であり、食品包装は、規模も就業人口も大きく、極めて学際的・業際的な分野であり、非常に奥の深い大きな産業分野になっています。私達の日常生活に欠かすことのできない食糧・食品・農畜水産物を安定的に供給する役割を担う重要な産業になっています。これらの食料供給システムの円滑化に貢献すべく、引き続き関連情報の発信に努めて参ります。そのためにも、ホームページのコンテンツや会報を充実させ、会員の皆様へのサービスに努め、ご要望をお聞きしつつ、本年も事業活動の充実を図って参りますので、何卒宜しくご支援の程お願い申し上げます。

令和7年度における食包協の諸事業の推進

これまで食包協では、人材育成講座、食品包装学校、食品包装シンポジウム、Next Package 交流会、食品包装セミナー、勉強会、食品包装検定、見学会などの様々な教育プログラムやイベント、食包協会報、ホームページや書籍の出版などで情報の発信を行ってきました。

人材育成講座をリニューアル

一昨年度には、人材育成プログラムとして人気のある人材育成講座の内容をリニューアルし、講座数を増やし、多くの方々に参加して頂いています。今年度も引き続き、講義資料をリニューアルし、皆様の期待に応えていきたいと考えています。

人材育成活動を担う「食品包装学校」の開校と第四期を迎えて

「食品包装学校」は、本年度は**第四期**を開校することになります。食品包装を大学で殆ど教えないことから、大学などでは学べない「食品包装」に特化した知識を提供する「総合的な教育の場」として5月から開校致します。講座数を少し少なくし、受講生の負担を少し軽減し、受講しやすくしました。講座の内容も見直して、フォローアップ授業も充実させていく予定です。

食品包装シンポジウムで将来の食品包装産業を論議

昨年度は第55回のシンポジウムで、大御所の有田先生に参加して頂き、「食品包装の脱ガラパゴス化」の第3弾を実施し、多くの方にご参集いただきました。今年度は、「環境問題をめぐる食品包装の課題」を取り上げて、パネルディスカッションを行いたいと思います。多数のご参加を期待します。

Next Package 展示会による食品包装技術の発信

単なる展示会ではなく、参加者相互の情報交流を目指しています。昨年の展示会は、参加企業数

も増え、元のようにたくさんの参加者で賑わいました。今年度は、会場を更に広くし、参加企業、参加者共に大幅に増えることを期待しています。

2025年度事業計画予定

- ・ **包装シンポジウム**：第56回食品包装シンポジウム開催（2025年11月開催予定）
- ・ **食品包装セミナー**：年6回（6月、7月、9月、10月、12月、2月）
- ・ **食品包装学校**：5月9日(金)開校式、3月13日(金)修了式。
 - ・ 全29講座（内特講が8講座）
 - ・ フォローアップⅠは、2カ月に1回（7, 9, 11, 1月）予定
 - ・ フォローアップⅡは、1回10月に実施予定
- ・ **人材育成講座（初級）**：年／3回予定
 - 第1回：第35回人材育成講座(初級)オンライン配信(7月1日(火)、8日(火)、15日(火))
 - 第2回：第36回人材育成講座(初級)オンデマンド配信(10/7(火)、10/14(火)、10/21(火))
 - 第3回：第37回人材育成講座(初級)オンデマンド配信(2/3(火)、2/10(火)、2/17(火))
 - ※オンライン：全講座15講座 1講座60分 1日5講座×3日間（週/1日）
 - ※オンデマンド：全講座15講座 1講座60分 1週間5講座×3週間
- ・ **勉強会**：7月予定
- ・ **展示会**:第8回 Next Package2024 展示会開催
 - 日時：2024年11月14日(木)10:00~17:00
 - 会場：秋葉原UDXギャラリーType L（会場は昨年よりさらに拡大）
 - *出展企業募集数：36社目標（総出展社数は53社目標）
- ・ **食品包装検定試験**：12月3日(水)（食包協事務所にて、午前、午後計30名）

2025 年度事業計画

		2025年度(令和7年) 事業計画予定						2025/5/23	
	委員会	会報発行	事業・行事内容					備考	
			食品包装学校 実施予定	食育人材育成講座 実施予定	食品包装セミナー 実施予定	関西連絡事務所西日本交流会 実施予定	他事業(展示会、シンポジウム、検定試験他) 実施予定		
2025年 (令和7年)	4月	◎第1回運営委員会 (4/11金 15:00~)	*第186号(4月掲載) ・4/00 HP掲載						
	5月	◎第1回運営常理事会 (ハイブリッド開催) (5/8木 15:00-16:30) ◎定時社員総会 (ハイブリッド開催) (5/23金 10:00-12:00)		■第3期食品包装学校(リアル) 開校式、2 講座、交流会 (13:00-17:00) *5/9金:北とびあ			■第1回西日本交流会 リアル:5月12日(月)15:00~ 会場:北大金館		
	6月	◎第2回運営委員会 (6/13金 15:00~)		6月 食品包装学校 (3 講座) (オンデマンド配信)		■第1回食品包装セミナー Zoom(6/18木 15:30~)			
	7月		*第187号(7月掲載) ・7/00 HP掲載	7月 食品包装学校 (3 講座) *フォローアップ I 7/18金13:00-15:00	■第1回オンライン配信 第36回人材育成講座(初級) <7/1火、8火、15火>	■第2回食品包装セミナー Zoom(7/24木 15:30~)		勉強会開催 (7月予定 15:00-19:30) ・会場:未定 ・講演後、懇親会開催 検定試験募集開始	
	8月	◎第3回運営委員会 (8/8金 15:00~)		8月 食品包装学校 (3 講座)					
	9月			9月 食品包装学校 (3 講座) (オンデマンド配信) *フォローアップ I 9/18木13:00-15:00 ■FP5スペシャリストの集い 9/19(金)13:30-17:00 場所:未定		■第3回食品包装セミナー Zoom(9/24水 15:30~)			
	10月	◎第4回運営委員会 (10/3金 15:00~)	*第188号(10月掲載) ・10/00 HP掲載	10月 食品包装学校 (3 講座) (オンデマンド配信) フォローアップ II (10/17金 13:30~) <場所未定&リアル>	■第2回オンデマンド配信 第36回人材育成講座(初級) (10/7火、14火、21火~)	■第4回食品包装セミナー Zoom(10/22水 15:30~)		第8回 NP 出展企業募集 (10/4迄)	
	11月			11月 食品包装学校 (3 講座) *フォローアップ I 11/20木13:00-15:00			■第2回西日本交流会	■第8回 Next Package 2025 ・リアル展示会(休業日LDX TypeL) ・開催日:11/14木 10:00-17:00 ■第60回食品包装シンポジウム ・リアル開催(北とびあ1601会議室) ・開催日:11/19木 10:00-16:00	
	12月	◎第5回運営委員会 (12/12金 15:00~)		12月 食品包装学校 (3 講座) (オンデマンド配信)		■第6回食品包装セミナー Zoom(12/17水 15:30~)		■第9回食品包装検定試験 *日程:① 12月3日(水) ② 12月4日(木) (予備) ・午前 10:30-11:30 ・午後 13:30-14:30 <試験会場:食包協 事務所>	
	2026年	1月	◎第2回運営常理事会 (ハイブリッド開催) (1/00 15:00-16:30)	*第189号(1月掲載) ・1/00 HP掲載	1月 食品包装学校 (3 講座) (オンデマンド配信) *フォローアップ I 1/20 (火) 13:00-15:00				2026年度包装界合同新年会 1月00日 (東京會館 3Fロース)
2月		◎第6回運営委員会 (2/13金 15:00~)		2月 食品包装学校 (3 講座) (オンデマンド配信)	■第3回オンデマンド配信 第37回人材育成講座(初級) (2/3火、10火、17火~)	■第6回食品包装セミナー Zoom(2/18木 15:30~)			
3月				■第8期食品包装学校(リアル) 歴史解説&修了式 会場:北とびあ 3月13日(金)13:30-17:00				*見学会:未定	